

きょう収穫祭

北方特産 元気ばりばりじねんじょう

今年も期待通りの

大きいもので
180センチ、約2キロ

「元気ばりばりじねんじょう」のブランド名で知られる延岡市北方町特産の自然薯（じねんじょう）が、本格的な収穫期を迎えている。

同町自然薯生産組合（甲斐組組合長）の収穫祭はきょう、組合員の山本確さん（69）方のほ場

（同町川水流）で行われ、関係者ら約40人がシーズンの到来を喜んだ。広さ20坪のほ場の一角

で山本さんがくわを入れると、立派に育った自然薯が次々と姿を見せた。

大きなもので長さ180センチ、重さ2キほど。山本さんは「11月初めに試し掘りした際の経過も良好だった。期待通りでホッとした」。甲斐組合長は「台風の影響もあって心配していたが、質はよきそう。広く出荷して『元気ばりばりじねんじょう』のブランド価値を高めたい」と話した。

会場では、磯辺揚げや素揚げ、ステーキ、ムカゴのおにぎりなど自然薯料理の振る舞いもあり、出席者は北方を代表する味を楽しんだ。同組合によると、収穫は年内をピークに2月末ごろまで。今年度は7農家が約110坪のほ場で生産しており、昨年同様、約4・5坪の収穫を見込んでいる。

商品は「ゆうパック」で全国発送が可能。県北地域の郵便局で申し込みができる。また、道の駅「北方よっちみる屋」では12月1、2日、「自然薯まつり2018」を開催

し、自然薯の即売や関連商品の販売を行う。



掘り起した自然薯を手にする山本確さん（きょう午前、北方町川水流）

2018. 11. 20 (X)